

平成 28 年度 スポーツ庁委託事業

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業 報告書



国立大学法人筑波大学

筑波大学オリンピック教育プラットフォーム (CORE)

平成 29 年 3 月

本報告書は、スポーツ庁「スポーツ・フォー・トゥモロー等推進プログラム」による委託事業として、国立大学法人筑波大学が実施した「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」（平成28年度）の成果を取りまとめたものです。  
したがって、本書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続が必要となります。

## はじめに

国立大学法人筑波大学では、平成27年度スポーツ庁委託「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント調査研究事業」を受託し、宮城県、京都府、福岡県の教育庁および各府県の推進校（幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等）に協力を得て、オリンピック・パラリンピック教育の実施に関する調査研究を行いました。

本事業はその成果をもとに、より発展的に学校や地域におけるオリンピック・パラリンピック・ムーブメントの普及・推進を実施したものです。具体的には、昨年度にネットワークを構築した3府県に新たに茨城県を加えた4府県を対象として、当該自治体の推進校における充実したオリンピック・パラリンピック教育を実施するとともに、官民一体の多様な組織が参加するコンソーシアムを再整備し、市民対象の公開フォーラムを通してオリンピック・パラリンピック・ムーブメントの波及を促進しました。ぜひ、各府県の特徴あふれる事業成果をご覧ください、平成29年度以降のスポーツ庁「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」をはじめ、2020年に向けた各施策の推進に向けた資料としていただければ幸いです。

本事業の推進にあたりご協力いただいた皆様、そして各府県の教育庁、推進校の先生方には、年度途中の依頼にもかかわらず大変なご尽力をいただきました。心より感謝申し上げます、結びとさせていただきます。

平成29年3月

筑波大学オリンピック教育プラットフォーム  
事務局長 真田 久

## 目 次

### はじめに

#### 本事業の概要

1. 本事業の目的…………… 1
2. 推進体制…………… 2
3. 実施スケジュール…………… 2

#### オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進校セミナー

1. 茨城県…………… 4
2. 京都府…………… 6
3. 福岡県…………… 8

#### オリンピック・パラリンピック教育の実践内容

1. 宮城県…………… 1 1
2. 茨城県…………… 1 2
3. 京都府…………… 1 3
4. 福岡県…………… 1 5

#### オリンピック・パラリンピック教育ワークショップ

1. 宮城県…………… 1 7
2. 茨城県…………… 1 9
3. 京都府…………… 2 0
4. 福岡県…………… 2 2

#### コンソーシアム及び公開フォーラム

1. 宮城県…………… 2 5
2. 茨城県…………… 2 7
3. 京都府…………… 2 9
4. 福岡県…………… 3 2

## 本事業の概要

### 1. 本事業の目的

2020年東京大会の準備及び運営に関する施策の推進を図るための基本方針（平成27年11月27日閣議決定）において、政府は「大会開催を契機に、オリンピック・パラリンピック教育の推進によるスポーツの価値や効果の再認識を通じ、国際的な視野を持って世界の平和に向けて貢献できる人材を育成する」ことを決定している。本事業は、この方針の実現にむけて、スポーツ庁より事業委託を受けた筑波大学が、宮城県、茨城県、京都府、福岡県の協力を得て学校や地域一般におけるオリンピック・パラリンピック・ムーブメントを推進することを目的とするものである。

具体的な内容は次の二点である。一点目は、オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進校（計120校：幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、大学）におけるオリンピック・パラリンピック教育の実施である。

表1 本事業で設定したオリンピック・パラリンピック教育のテーマ

- |   |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"><li>① オリンピズムの教育的価値（努力の喜び、フェアプレー、他者への尊敬、卓越性の追求、バランスのとれた身徳知）を普及させるための教育・啓発</li><li>② 「おもてなし」精神を備えた大会ボランティアおよび都市ボランティア等の養成を促進するための教育・啓発</li><li>③ パラリンピックや障害者スポーツへの関心を高めるための教育・啓発</li><li>④ 日本文化や地域・郷土の文化への関心を高め、スポーツを通じた異文化・国際理解を促進するための教育・啓発</li><li>⑤ スポーツを楽しむ心を醸成するための教育・啓発（体育嫌いの解消、マイナー競技への認知理解の促進）</li></ol> |
|---|

各推進校は、表1のテーマを参考にオリンピック・パラリンピック教育の実践を行った。なお、各推進校の実践に際しては、事前研修会として「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進校セミナー」を開催し、理論的枠組みや筑波大学附属学校群における実践例の共有等を行った。また年度末には、推進校での実践に関する成果発表および情報交換のための事後研修として「オリンピック・パラリンピック教育ワークショップ」を開催した。

二点目は、公開フォーラムを通じた地域におけるオリンピック・パラリンピック・ムーブメントの普及である。フォーラムの開催に際しては、各府県で行政や教育、メディア、企業、スポーツチーム等の関係者からなる「府・県オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進コンソーシアム」を組織し、その内容について検討した。(図1)

## 2. 推進体制

本事業の推進は、筑波大学の CORE を拠点に、各府県の教育庁と協力体制を構築した。各地域では、それぞれ1名のコーディネーター(担当課総括指導主事等)に教育庁内外の調整を依頼し、推進校の選定・統括、推進校セミナー、ワークショップ、コンソーシアムおよび市民フォーラム運営への協力を得た。

## 3. 実施スケジュール

- ・ 8月には、筑波大学内の推進体制の整備ならびに各府県の教育庁への協力依頼を行った。そして、各府県のコーディネーターおよび関係者を対象とした検討会を開催し、昨年度からの経緯を踏まえた本事業の概要と事務手続きに関するオリエンテーションを実施した。
- ・ 8月～10月には、推進校セミナーを実施し、CORE に蓄積された国内外のオリンピック・パラリンピック教育に関する基礎的情報を提供した。その後、各推進校では、前述の5つのテーマの枠組みを参考に各校の特色を生かした教育実践を展開し、成果と課題をまとめた。
- ・ 11～2月には、各府県でコンソーシアム会議を結成し、それぞれ1～2回の会議を開催した。有識者からの意見等をもとに公開フォーラムを開催し、地域のオリンピック・パラリンピック・ムーブメントの推進を行った。
- ・ 2月には各府県でワークショップを開催し、推進校の実践に関する成果と課題を共有するとともに、グループワークを通して新たなアイデアに関する意見交換を実施した。
- ・ 3月には、事業の全体総括を行うとともに、スポーツ庁オリンピック・パラリンピック課と各府県のコーディネーターが参加する検討会を実施し、今年度事業の成果と課題について意見交換を行った。

## スポーツ庁委託事業「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

宮城・茨城・京都・福岡の4府県を拠点に、官民一体のコンソーシアムの組織とオリンピック・パラリンピック教育の推進校の選定を行い、教育実践や公開フォーラムを通して、学校や地域におけるオリンピック・パラリンピック・ムーブメントの普及・推進を行う。

### オリンピック・パラリンピック教育とは

オリンピック、パラリンピックやスポーツの価値に関する学習を通して、国際的な視野に立ち世界平和の構築に貢献する人材を育成

◆ 国際オリンピック委員会は、オリンピックの教育的価値(教育テーマ)として以下の5点を掲げている。

1. 「Joy of Effort(努力の喜び)」
2. 「Fair Play (フェアプレー)」
3. 「Respect for Others (他者への尊敬)」
4. 「Pursuit of Excellence (卓越性の追求)」
5. 「Balance between Body, Will and Mind (バランスのとれた身徳知)」

◆ これらの価値を念頭に、2020年の東京大会に向けてオリンピック・パラリンピック自体の学習を行うとともに、スポーツをテーマとした世界各国・地域の文化や社会問題等に関する学習、ホスト国市民としてのおもてなしの心を醸成する学習等を展開する。

◆ 推進校では、地域の特色を活かしながら、保健体育のみならず、社会や英語、数学、芸術科目など幅広い教科、また課外活動においてオリンピック・パラリンピック教育が推進されていくことが期待される。

(具体的な展開例)



アスリートとの交流

パラ・スポーツの体験

日本文化の学習

国際交流・異文化理解



### 本事業における主な取組み

#### 推進校セミナー

推進校教員向けの研修を実施。理論的枠組みや実践例を紹介。



#### 推進校における教育実践

セミナーの内容を受け、各校の特色や教育目標に応じた教育実践を行う。



#### 教育ワークショップ

各校での実践事例の共有を通じて改善の検討、教育効果の検証を行う。



### ⇒大学・行政・アスリート・民間企業・地元メディア等が一体となって教育活動の推進とムーブメント醸成を図る

#### コンソーシアムにおける連携

官民一体の組織体を形成し、各地域の特色を活かしたムーブメントの波及について検討



#### 公開フォーラムの開催

市民を対象に、地域の特色を活かしたオリンピック・パラリンピック・ムーブメントに関する公開フォーラムを開催



### 事業スケジュール概要

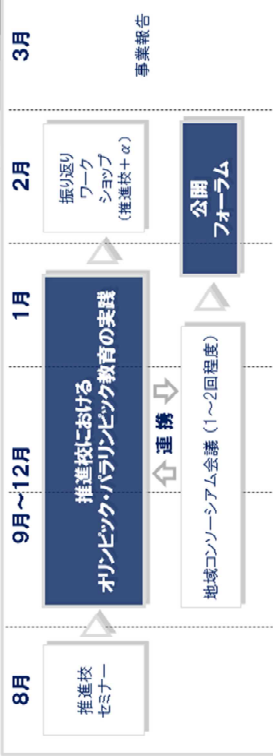


図 1 事業の全体概念図

## オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進校セミナー

本事業では、8月から10月にかけて、各府県においてオリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進校セミナーを開催した。本セミナーは、推進校の教員を対象とした事前研修会として、国内外のオリンピック・パラリンピック教育の実践事例について紹介するとともに、推進校と主催者間の情報共有を行うことを目的として実施された。

推進校セミナーのプログラムについては、各府県の状況に応じてコーディネーターと調整の上、企画検討を行った。以下に、各府県において開催された推進校セミナーの概要について報告する。なお、宮城県については、平成28年8月30日（火）の実施を予定していたが、台風の影響により中止となり、各推進校には関連資料を郵送する等して対応した。

### 1. 茨城県

#### (1) 開催概要

日 時：平成28年10月7日（金）14時00分～16時30分

会 場：水戸駅ビル エクセル本館6階大ホール

主 催：筑波大学オリンピック教育プラットフォーム

共 催：茨城県教育委員会

参加者：60名

プログラム：

14：00～ 開会挨拶

茨城県教育庁学校教育部保健体育課 課長 藤田知巳

14：05～ 平成28年度オリンピック・パラリンピック・ムーブメント

全国展開事業概要説明

筑波大学体育系 教授 真田久

14：35～ 東京2020教育プログラム-学校編-の認証について

筑波大学体育系 特任助教 荒牧亜衣

14：50～ 休憩



- 15:00～ 筑波大学附属学校群における実践事例の紹介  
「オリンピズムを教育に まずは既存の“学校体育”の充実から」  
筑波大学附属高等学校 教諭 中塚義実  
「筑波大学附属桐が丘特別支援学校における取り組み」  
筑波大学附属桐ヶ丘特別支援学校 教諭 宮内綾香  
「おもてなし講座」の紹介  
筑波大学客員教授 江上いずみ
- 16:00～ 本事業事務手続き等に関する説明  
茨城県教育庁学校教育部保健体育課  
学校体育担当 指導主事 塚田勝之  
管理担当 課長補佐 飛田和宏
- 16:30～ 閉会挨拶  
茨城県教育庁学校教育部保健体育課  
学校体育担当係長 五十野誠

(閉会后) アンケート記入

## (2) 内容

本事業概要について、本事業の趣旨・目的、スケジュールや流れを中心に、推進校の実践テーマ、コンソーシアムや市民フォーラムの実施についての説明があった。また、事業説明に引き続いて、現在東京都教育委員会が実施している2020年東京大会に向けたオリンピック・パラリンピック教育についての報告があった。推進校数、実施方針や重点に育成すべき5つの資質(①ボランティアマインド、②障害者理解、③スポーツ志向、④日本人としての自覚と誇り、⑤豊かな国際感覚)などが示された。

筑波大学附属学校群におけるオリンピック・パラリンピック教育の実践事例について、筑波大学附属高等学校の中塚教諭よりオリンピック・パラリンピック教育を導入した経緯を、COREの設立や国際ピーエル・ド・クーベルタン・ユースフォーラムの説明も含めて報告があった。また、オリンピック・パラリンピック教育を実施する上で、「体育授業」「総合的な学習の時間」「学校行事・部活動」などで、どのように「オリンピズム」と関連させたかについて具体例

を挙げて示した。さらに、筑波大学附属桐が丘特別支援学校の宮内教諭より、児童生徒の実態に合わせたボッチャと運動会の実践が紹介された。実践後の生徒の意識の変化の報告もあった。



## 2. 京都府

### (1) 開催概要

日 時：平成28年9月16日（金）14時00分～16時30分

場 所：メルパルク京都 5階会議室A

主 催：京都府教育委員会

筑波大学オリンピック教育プラットフォーム

共 催：オリンピック・パラリンピック教育推進福岡県実行委員会

参加者：66名

プログラム：

14：00～ 開会挨拶

京都府教育庁指導部保健体育課 課長 角井弘之

14：05～ 平成28年度オリンピック・パラリンピック・ムーブメント

全国展開事業概要説明

筑波大学体育系 教授 真田久

14：35～ 東京2020教育プログラム-学校編-の認証について

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

企画財務局 企画課 企画チーム 笠松亜希

14：50～ 休憩

- 15：00～ 筑波大学附属学校群における実践事例の紹介  
「オリピズムを教育に まずは既存の“学校体育”の充実から」  
筑波大学附属高等学校 教諭 中塚義実  
「筑波大学附属大塚特別支援学校の実践紹介  
みんなで考えよう！オリパラ教育」  
筑波大学附属大塚特別支援学校 教諭 深津達也  
「おもてなし講座」の紹介  
筑波大学客員教授 江上いずみ
- 16：00～ 本事業事務手続き等に関する説明  
京都府教育庁指導部保健体育課学校体育担当
- 16：30～ 閉会挨拶  
京都府教育庁指導部保健体育課学校体育担当  
総括指導主事 村上昌司  
アンケート記入

## (2) 内容

事業概要について、本事業の趣旨・目的、スケジュールや流れを中心に、推進校の実践テーマ、コンソーシアムや市民フォーラムの実施についての説明があった。事業説明に引き続き真田氏より、現在東京都教育委員会が実施している2020年東京大会に向けたオリンピック・パラリンピック教育についての報告があった。推進校数、実施方針や重点に育成すべき5つの資質（①ボランティアマインド、②障害者理解、③スポーツ志向、④日本人としての自覚と誇り、⑤豊かな国際感覚）などが示された。

次に、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会笠松氏より、東京2020教育プログラムの概要と東京オリンピック・パラリンピック教育実施校の事業認証についての説明があった。

続いて、筑波大学附属学校群におけるオリンピック・パラリンピック教育の実践事例について、筑波大学附属高等学校の中塚教諭よりオリンピック・パラリンピック教育を導入した経緯を、COREの設立や国際ピーエル・ド・クーベルタン・ユースフォーラムの説明も含めて報告があった。また、オリンピック・

パラリンピック教育を実施する上で、「体育授業」「総合的な学習の時間」「学校行事・部活動」などで、どのように「オリンピズム」と関連させたかについて具体例を挙げて示した。さらに、筑波大学附属大塚支援学校の深津教諭より、オリンピック・パラリンピック教育の魅力と幼稚部から高等部までの生徒の実態に合わせた実践例を紹介した。その際の留意点や工夫点なども加えて説明があった。



### 3. 福岡県

#### (1) 開催概要

日 時：平成28年8月29日（月）14時30分～16時30分

会 場：アクロス福岡 606会議室

主 催：福岡県教育委員会

筑波大学オリンピック教育プラットフォーム

参加者：36名

プログラム：

14：30～ 開会挨拶

福岡県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課

総括指導主事 中野一成

14：35～ 平成28年度オリンピック・パラリンピック・ムーブメント

全国展開事業概要説明

筑波大学体育系 准教授 宮崎明世

- 15:05～ 東京2020教育プログラム-学校編-の認証について  
公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会  
企画財務局 アクション&レガシー部 アクション&レガシー課  
事業チーム（文化・教育）主事 志岐昂一
- 15:20～ 休憩
- 15:30～ 筑波大学附属学校群における実践事例の紹介  
筑波大学附属中学校 教諭 長岡樹
- 15:50～ 本事業事務手続き等に関する説明  
福岡県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課  
体育・健康教育班 指導主事 物部倫明
- 16:05～ 福岡県体育研究所からの諸連絡  
福岡県体育研究所 指導主事 村山直樹
- 16:25～ アンケート記入

## （2）内容

事業概要について、事業目的や推進校における実践テーマなどを中心に、地域コンソーシアムの構成や今後市民を対象としたフォーラムを行うことなどについて説明があった。事業説明に引き続いて、オリンピック・パラリンピック教育の理論と実践について報告があった。IOC（国際オリンピック委員会）が作成しているオリンピック・パラリンピック教育教材である OVEP（Olympic Value Education Program）の概要やオリンピック憲章などについて説明があり、またオリンピック・パラリンピック教育の内容系統について紹介され、教科教育型、総合型、行事・発表型、イベント型、生活型、交流型の6つの型が示された。また、直近の東京都による教育プログラムの概要が示された。

次に、本年10月より始まる東京2020教育プログラムに関して、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の志岐氏よりガイドラインに基づいて説明があった。東京2020教育プログラムに参画することにより、東京オリンピック・パラリンピックのエンブレムを用いた教育ロゴの使用が可能になる旨が紹介された。

続いて、筑波大学附属学校群におけるオリンピック・パラリンピック教育の実践事例について、筑波大学附属中学校の長岡教諭より古代オリンピックやブラインドサッカーを題材とした授業実践が紹介された。また総合的学習において、外国人との交流会を設け、生徒が英語で日本の体育・スポーツの特徴を説明する取り組みなどが報告された。さらに、附属学校群における実践事例として附属高校生徒によるピエール・ド・クーベルタンニュースフォーラムへの参加や附属坂戸高校における障害者スポーツ大会ボランティア学習や大塚特別支援学校との交流学習について報告があった。



## オリンピック・パラリンピック教育の実践内容

本事業では、各府県において計120校の推進校を指定し、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学、特別支援学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の実践を行った。以下に、各府県の推進校の概要と特徴的な実践内容について報告する。なお、各学校における報告書の詳細は、筑波大学オリンピック教育プラットフォームのウェブサイト (<http://core.taiiku.tsukuba.ac.jp/>) に掲載されている。

### 1. 宮城県

#### (1) 宮城県におけるオリンピック・パラリンピック教育の実践

宮城県では、教育庁スポーツ健康課学校安全体育班課長補佐（班長）がコーディネーターを務め、推進校27校（内訳は以下の表に記載）においてオリンピック・パラリンピック教育の実践が35事例展開された。

幼稚園（1）	宮城教育大学附属幼稚園
小学校（8）	丸森町立丸森小学校、亘理町立高屋小学校、大崎市立古川第三小学校、栗原市立築館小学校、石巻市立貞山小学校、登米市立中津山小学校、 気仙沼市立松岩小学校、仙台市立原町小学校
中学校（8）	蔵王町立遠刈田中学校、利府町立利府中学校、 加美町立中新田中学校、栗原市立栗原西中学校、石巻市立渡波中学校、登米市立登米中学校、 気仙沼市立条南中学校、仙台市立八乙女中学校
高等学校（5）	宮城県泉高等学校、宮城県石巻西高等学校、宮城県松島高等学校、宮城県利府高等学校、聖和学園高等学校
特別支援学校（2）	宮城県立聴覚支援学校、学校法人明和学園いずみ高等支援学校
大学（3）	宮城教育大学、宮城大学、仙台大学

## (2) 特徴的な実践事例

宮城県の推進校（中学校）では、震災からの地域復興との関連で教育実践を展開した事例が見られた。「石巻復興マラソン大会」において、同校の生徒一人ひとりが震災復興、東京オリンピック・パラリンピックに向けたメッセージを記入した自作のゼッケンを身に着けて参加し、またボランティアとして大会運営の補助、横断幕の作成を行った。選手として、運営者として、そしてサポーターとして様々な角度からスポーツイベントの実施に携わり、オリンピック・パラリンピックと震災復興に向けた取り組みに関する意識を高めることにつながった。

## 2. 茨城県

### (1) 茨城県におけるオリンピック・パラリンピック教育の実践

茨城県では、茨城県教育庁学校教育部保健体育課スポーツ推進室スポーツ推進担当指導主事がコーディネーターを務め、推進校20校（内訳は以下の表に記載）においてオリンピック・パラリンピック教育の実践が20事例展開された。

小学校（10）	笠間市立笠間小学校、ひたちなか市立佐野小学校 日立市立会瀬小学校、常陸太田市立西小沢小学校 鹿嶋市立平井小学校、鉾田市立旭東小学校 つくば市立上郷小学校、河内町立みずほ小学校 八千代町立下結城小学校、境町立長田小学校
中学校（5）	常陸大宮市立大宮中学校、日立市立大久保中学校 鉾田市立鉾田北中学校、土浦市立土浦第五中学校 常総市立鬼怒中学校
高等学校（3）	茨城県立東海高等学校、茨城県立中央高等学校 茨城県立波崎柳川高等学校
特別支援学校（2）	茨城県立水戸高等特別支援学校、茨城県立北茨城特別支援学校



## (2) 特徴的な実践事例

茨城県の推進校（小学校）では、児童による「オリパラかるた」の作成と、それを用いたかるた大会を通して、オリンピック・パラリンピックの理解を深める取り組みが行われた。まず4年生の児童が自らの興味に合わせてオリンピック・パラリンピックにまつわる調べ学習を行い、キーワードを決めて絵札と読み札を作成、それを用いて3年生とともにかるた大会を行ったものである。オリンピック・パラリンピックを、かるたという日本の伝統的な遊びを通して学ぶこの活動は、主体的な学習意欲を高める画期的な教育実践であるといえる。

## 3. 京都府

### (1) 京都府におけるオリンピック・パラリンピック教育の実践

京都府では、教育庁指導部保健体育課の総括指導主事がコーディネーターを務め、推進校49校（内訳は以下の表に記載）においてオリンピック・パラリンピック教育の実践が56事例展開された。

小学校（5）	京都市立祥栄小学校、京田辺市立薪小学校、木津川市立上狛小学校、井手町立井手小学校、井手町立多賀小学校
中学校（13）	京都市立加茂川中学校、京都市立烏丸中学校、大山崎町立大山崎中学校、木津川市立山城中学校、井手町立泉ヶ丘中学校、亀岡市立南桑中学校、南丹市立園部中学校、京丹波町立蒲生野中学校、京丹波町立瑞穂中学校、綾部市立綾部中学校、福知山市立南陵中学校、舞鶴市立城南中学校、宮津市立宮津中学校
高等学校（20）	京都府立鴨沂高等学校、京都府立洛北高等学校、京都府立鳥羽高等学校、京都府立北嵯峨高等学校、京都府立洛水高等学校、京都府立京都すばる高等学校、京都府立乙訓高等学校、京都府立西乙訓高等学校、京都府立西城陽高等学校、京都府立京都八幡高等学校、京都府立久御山

	高等学校、京都府立田辺高等学校、京都府立須知高等学校、京都府立綾部高等学校、京都府立西舞鶴高等学校、京都府立加悦谷高等学校、京都府立網野高等学校、京都市立紫野高等学校、京都市立塔南高等学校、京都市立西京高等学校定時制
特別支援学校（11）	京都府立盲学校、京都府立聾学校、京都府立向日が丘支援学校、京都府立宇治支援学校、京都府立城陽支援学校、京都府立八幡支援学校、京都府立南山城支援学校、京都府立丹波支援学校、京都府立中丹支援学校、京都府立舞鶴支援学校、京都府立与謝の海支援学校

## （2）特徴的な実践事例

京都府の推進校（高等学校）では、「友情のメダル」をきっかけとした学校間のスポーツ交流が行われた。これは、1936年のベルリン大会の陸上競技棒高跳で銀・銅メダルを獲得した西田修平と大江季男の両母校で実践されたもので、参加生徒は自分の学校とオリンピックの歴史に思いを馳せながら交流を深めた。また、別の推進校（特別支援学校）では、視覚特別支援学校の生徒が一般校の生徒に対して視覚障害を説明し、フロアバレーボールを通して他者理解を促進する実践が行われた。外部講師による授業が多く見られる中で、生徒同士で展開された特徴的な教育活動であった。

#### 4. 福岡県

##### (1) 福岡県におけるオリンピック・パラリンピック教育の実践

福岡県では、教育庁教育振興部体育スポーツ健康課体育・健康教育班指導主事がコーディネーターを務め、推進校23校（内訳は以下の表に記載）においてオリンピック・パラリンピック教育の実践が23事例展開された。とくに特徴的であった実践例について、以下に紹介する。

小学校（8校）	宗像市立吉武小学校、岡垣町立戸切小学校、うきは市立山春小学校、大牟田市立天領小学校 田川市立田川小学校、豊前市立横武小学校、福岡市立草ヶ江小学校、北九州市立西小倉小学校
中学校（8校）	筑紫野市立筑紫野中学校、水巻町立水巻南中学校、朝倉市立比良松中学校、八女市立上陽北浜学園、飯塚市立飯塚第一中学校、豊前市立角田中学校、福岡市立玄洋中学校、北九州市立思永中学校
高等学校（3校）	福岡県立三潴高等学校、福岡県立直方高等学校 福岡県立玄界高等学校
特別支援学校（3校）	福岡県立福岡特別支援学校、福岡県立福岡視覚特別支援学校、福岡県立福岡高等視覚特別支援学校

##### (2) 特徴的な実践事例

福岡県の推進校（小学校）では、学校全体でオリンピック・パラリンピック教育の推進に取り組み、全校朝会での講話や「オリ・パラコーナー」の設置、総合的な学習や教科指導において多様な実践が取り組まれた。とくに、学年別で設定されたテーマに沿って調べ学習を行った事例や、体育科の跳び箱、マット運動にオリンピック・パラリンピックの要素を盛り込んでアレンジされた授業内容は、今後の全国展開に向けて参考となる事例であった。

このように、今年度実施した4府県では①保健体育科を中心に、幅広い教科等（算数、音楽、道徳、英語、総合的な学習）での教材の工夫、②各学校、地

域における教育資源の活用（地元ゆかりのアスリート・プロスポーツチームとの連携、地域の特色あるイベントへの参画等）、③事前合宿地（ホストタウン）誘致活動と連携した実践例など見られ、昨年度の調査研究事業に増して多様な教育内容が展開された。

## オリンピック・パラリンピック教育ワークショップ

本事業では、2月中旬から下旬にかけてワークショップを各府県において開催した。推進校の教員を対象とした事後研修会として、今年度の教育実践の成果や課題を報告するとともに、推進校間の情報共有を目的として実施された。

まず、他府県のオリンピック・パラリンピック教育の実践内容について紹介があり、続いてグループワーク形式で各推進校の成果等を報告した。また、今後の課題や新たな展開に向けたアイデアに関する議論を行った。以下に、各府県における開催概要を報告する。

### 1. 宮城県

#### (1) 開催概要

日 時：平成29年2月16日（木） 14時00分～16時30分

会 場：仙台市民会館 第4会議室

主 催：オリンピック・パラリンピック教育推進のための宮城県実行委員会  
筑波大学オリンピック教育プラットフォーム

参加者：23名

プログラム：

14：00～ 開会挨拶

宮城県教育庁スポーツ健康課スポーツ振興専門監 小幡佳彦

14：05～ 事業報告

茨城県、京都府、福岡県における事例紹介

筑波大学体育系准教授 宮崎明世

14：25～ 休憩

14：30～ グループワーク①：情報交換

(異なる校種でグループを作り情報交換を行う)

15：00～ グループワーク②：新しいアイデア

(同じ校種でグループを作り新しいアイデアを話し合う)

15：45～ グループワーク③：発表

(話し合った内容をグループごとに発表する)

16:10～ 講評

筑波大学体育系 准教授 宮崎明世

16:15～ 報告書作成について

アンケート記入

## (2) 内容

本ワークショップでは、本年度の宮城県オリンピック・パラリンピック教育推進校における実施事例を共有すること及び新しいアイデアを話し合うことを目的として、グループワーク及び各グループによる討議内容の発表が行われた。

茨城県、京都府、福岡県における事例紹介ではオリンピックやパラリンピアンなどゲストスピーカを呼ぶ講演形式の授業やプロスポーツチームの協力によるブラインドサッカー体験などの事例が紹介された。教科横断的な実践が行われている点、地域にちなんだスポーツや文化を踏まえた実践、2020年東京大会の事前合宿地の誘致と関係した実践が行われていることが指摘された。

グループワークでは、まず異なる校種によって5グループを編成し、各校における取り組みについて情報交換が行われた。続いて、同じ校種が集まるように6グループに再構成し、次年度に向けた教育実践について話し合いが行われた。最後に、各グループから発表がされ、する、みる、支えるスポーツを用いた実践事例の提案や、講演、体験型授業を通しアスリートと出会うことにより児童、生徒に良い影響がもたらされること、学校ごとの特色を活かした学習内容を計画すること等が報告された。



## 2. 茨城県

### (1) 開催概要

日 時：平成29年2月23日（木）10時00分～12時00分

場 所：ホテル テラス ザ ガーデン水戸 2階 シーズンコート

主 催：茨城県教育委員会

筑波大学オリンピック教育プラットフォーム

参加者：40名

プログラム：

10：00～ 開会挨拶

茨城県教育庁学校教育部保健体育課長 藤田知巳

10：05～ 事業報告

宮城県、京都府、福岡県における事例紹介

筑波大学体育系 教授 真田久

10：20～ 校種別小グループによる実践内容の報告

各グループの代表的実践の紹介

10：45～ グループディスカッション

今後の課題等についてのディスカッション

11：30～ 発表

11：50～ 講評

筑波大学体育系 教授 真田久

### (2) 内容

本ワークショップでは、本年度の茨城県オリンピック・パラリンピック教育推進校における実施事例を共有すること及び新しいアイデアを話し合うことを目的として、グループワーク及び各グループによる討議内容の発表が行われた。

まず本年度他府県（宮城県、京都府、福岡県）において実施された教育実践事例が報告された。事例報告ではプロスポーツチームの協力によるブラインドサッカー体験、事前合宿地誘致活動との連携や震災復興に関する内容を含んだ教育実践例が紹介された。これら教育実践は保健体育科だけではなく、教科を横断する形式で行われたことに触れられた。

グループワークでは、校種毎に小学校2グループ、中学校1グループ、高等学校・特別支援学校1グループの4グループを構成し、各校における取り組みについて情報交換が行われた。続いて、グループ内でディスカッションを行い次年度に向けた教育実践について話し合いが行われた。最後に各グループから発表が行われ、多くの学校でおもてなし講座が行われたこと、児童がオリンピック・パラリンピックに関心を持つようになったこと、講演型、体験型の授業を展開したことが報告された。



### 3. 京都府

#### (1) 開催概要

日 時：平成29年2月10日（金）13時30分～16時30分

会 場：メルパルク京都 5階 会議室A

主 催：京都府教育委員会

筑波大学オリンピック教育プラットフォーム

参加者：48名

プログラム：

13：30～ 開会挨拶

京都府教育庁指導部保健体育課長 角井弘之

筑波大学体育系 教授 真田久

13：40～ 事業報告

宮城県、茨城県、福岡県における事例紹介

筑波大学体育系 教授 真田久

14：00～ グループワークに関する説明



14:05～ 休憩

14:15～ グループワーク

15:15～ 休憩

15:25～ 発表

16:05～ 講評

筑波大学体育系 教授 真田久

筑波大学体育系 准教授 宮崎明世

16:20～ 事務連絡、アンケート記入

## (2) 内容

本ワークショップでは、本年度の京都府オリンピック・パラリンピック教育推進校における実施事例を共有することを目的として、グループワーク及び各グループによる討議内容の発表が行われた。

グループワークに先立ち、本事業概要の説明と本年度他県（宮城県、茨城県、福岡県）において実施された教育実践事例が報告された。

グループワークは、様々な校種を交えて7グループに分かれて実施された。その後、各グループで話し合ったことについて発表が行われた。成果と課題として、以下のことが報告された。

まず、成果としては、①「オリンピック・パラリンピアンとのスポーツ交流や講演会」では本物の触れることで生徒に対する刺激が大きく、生徒のみならず教師も学ぶことができた。②「地域や他校、姉妹校との交流」では、地域・世界・障害者と繋がることを重視し、生徒が主体となり行うことができた。③「障害者スポーツの理解体験や校種を越えた交流」では、生徒自身が実際に体験することができ、生徒の普段見えない姿を見ることができた、などの報告があった。

次に、課題としては、①オリンピックやパラリンピアンを招聘する際のような問題、②事業開始時期の早期化や継続性、③実践日程や場所を確保することの難しさ、④障害者スポーツ体験に関わる用具や場所の手配の難しさ、⑤各地域あった事業を行うことの重要性、など貴重な意見が報告された。



#### 4. 福岡県

##### (1) 開催概要

日 時：平成29年2月24日（金）14時00分～16時30分

会 場：天神ビル 9号会議室

主 催：福岡県教育委員会

筑波大学オリンピック教育プラットフォーム

参加者：36名

プログラム：

14：00～ 開会挨拶

福岡県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課  
総括指導主事 中野一成

14：05～ 事業報告

宮城県、茨城県、京都府における事例紹介  
筑波大学体育系 准教授 宮崎明世

14：20～ 福岡県における実践事例紹介

大牟田市立天領小学校 教諭 森永隆二  
福岡県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課  
指導主事 物部倫明

14：50～ 休憩

15：00～ グループディスカッション及び発表

校種別小グループによる実践内容の報告  
各グループの代表的実践の紹介、今後の課題等について発表

16 : 15 ~ 講評

筑波大学体育系 准教授 宮崎明世

16 : 25 ~ アンケート記入

## (2) 内容

福岡県教育庁中野氏の開会挨拶では、①オリンピック・パラリンピックに関する学習の機運の高まり、②『初等教育資料』において大牟田市立天領小学校、うきは市立山春小学校（ともに平成28年度本事業の福岡県推進校）の実践が取り上げられたことが紹介され、本ワークショップの内容が説明された。

次に、平成28年度の本事業概要を説明するとともに、他府県（茨城県、京都府、宮城県）における特徴的な実践事例を共有した。とくに①幅広い教科での実践、②地域の教育資源の活用（地元のプロスポーツチーム、地域の伝統的な身体文化等）、③ホストタウン誘致との連携に関する実践を紹介した。

そして、福岡県における実践事例について、天領小学校の森永教諭から、同校で実践された①オリンピック・パラリンピックの歴史や精神について学ぶ取組、②競技者とのふれあいを通してその精神を学ぶ取組、そして体育科学習指導におけるオリンピック・パラリンピックを生かした教材化の工夫に関する紹介が行われた。児童の感想から、この実践の成果についても言及された。そして、福岡県教育庁物部指導主事より推進校全体の教育実践に関する総括的な報告が行われた。

グループディスカッションでは、校種別に5つのグループが構成され、各校における実践内容の紹介とともに、その成果と課題が共有された。各グループの発表では、以下の内容が報告された。

まず、オリンピック、パラリンピアンとのふれあいによる貴重な経験が得られた一方、選手や団体との交渉方法、あるいは経済的な課題が挙げられた。オリンピック、パラリンピアンを招聘して実施された授業では、特に本人から直接体験談を聞いたことによって、生徒にとって大きな感動があったと考えられる。生徒にとどまらず、家族や地域への波及もみられた。今後は、地域のアスリート等の掘り起こしも必要となることが指摘された。また、オリンピック・パラリンピックの教材化に関する課題も挙げられた。国際的な競技会等の映像

を教材化することも提案された。



## コンソーシアム及び公開フォーラム

本事業では、学校や教育関係者にとどまらず、一般市民に向けたオリンピック・パラリンピック・ムーブメントの推進に向けた方策を検討する会議として、コンソーシアムを各府県に設置した。委員には行政・教育関係者、プロスポーツチーム関係者、オリンピック、パラリンピアン、体育協会関係者等が参画した。コンソーシアムで議論された成果は、公開フォーラムとして企画化され、1月末から2月中旬にかけて各府県において開催された。

### 1. 宮城県

#### (1) コンソーシアム会議

日時：平成28年12月26日（月）15：00～17：00

場所：河北新報社セミナールーム

出席委員：

赤平光秀（宮城県教育庁）

遠藤良則（宮城県体育協会みやぎ広域スポーツセンター クラブ育成指導員）

小松史嗣（公益財団法人宮城県スポーツ振興財団事業推進部 事業推進課長）

佐竹真（河北新報社 地域連携部長）

真田久（筑波大学）

千田健太（2012年ロンドン大会フェンシングフルーレ団体銀メダル）

欠席委員：

坂口信一（宮城県障害者スポーツ協会 事務局長）

仲野隆士（仙台大学副学長 体育学科長）

#### (2) 公開フォーラム

##### ①開催概要

テーマ：宮城県のスポーツと教育を展望する

日時：平成29年1月29日（日）13時30分～16時00分

会場：TKP ガーデンシティ仙台勾当台ホール1

主催：筑波大学オリンピック教育プラットフォーム

共 催：オリンピック・パラリンピック教育推進のための宮城県実行委員会

後 援：河北新報社

参加者：74名

プログラム：

13：30～ 開会挨拶

筑波大学体育系 教授 真田久

オリンピック・パラリンピック教育推進のための宮城県実行委員会委員長

松本文弘

13：45～ 宮城県におけるオリンピック・パラリンピック教育 実践事例報告

宮城県教育委員会スポーツ健康課学校安全体育班

課長補佐（班長） 赤平光秀

石巻市立貞山小学校 教諭 鎌田克信

石巻市立渡波中学校 教諭 高橋富有

宮城県松島高等学校 教諭 佐々木安弘

14：25～ 休憩

14：40～ パネルディスカッション

「宮城県のオリンピック・パラリンピック・ムーブメント」

・パネリスト

千田健太

村松淳司 グランディ・21 ボランティアキャプテン

大畑民夫 元 JAWOC (2002 FIFA ワールドカップ日本組織委員会)

宮城支部長

佐竹真

・進行

真田久

## ②内容

2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会の競技会場となる宮城県のスポーツと教育を展望することをテーマに、推進校におけるオリンピック・パラリンピック教育の実践と、宮城県出身のオリンピックメダリスト、大

会運営、大会を支えるボランティア、コンソーシアムの委員として地域のメディアという各立場からなるメンバーのパネルディスカッションを開催した。

実践事例報告では、被災地からの復興をうかがえる取り組みや学校の特色を生かし取り組みが発表された。また、パネルディスカッションではそれぞれの立場から、来たるべきオリンピック・パラリンピック競技大会に向け、大会を支える体制の構築について考える機会となった。



## 2. 茨城県

### (1) コンソーシアム会議

日時：平成29年1月12日（木）13：15～14：30

場所：水戸プリンスホテル

出席委員：

井口深雪（冬季パラリンピック3大会出場、1998年長野大会、  
2006年トリノ大会バイアスロン金メダル）

小野卓志（筑波大学、2008年北京大会出場、柔道81キロ級）

小林克行（茨城県教育庁）

真田久（筑波大学）

塚田勝之（茨城県教育庁）

欠席委員：

吉野聡（茨城大学）

## (2) 公開フォーラム

### ①開催概要

テーマ：茨城県のスポーツと教育を展望する

日時：平成29年2月5日（日）13時30分～16時00分

会場：三の丸ホテル 3階ジェンティール

主催：筑波大学オリンピック教育プラットフォーム

共催：茨城県教育委員会

参加者：130名

プログラム：

13：30～ 開会挨拶

筑波大学体育系 教授 真田久

茨城県教育庁学校教育部保健体育課長 藤田知己

13：35～ 茨城県オリンピック・パラリンピック教育 実践事例報告

ひたちなか市立佐野小学校 教諭 小沼明美

常陸大宮市立大宮中学校 教頭 岡部正徳

茨城県立水戸高等特別支援学校 教諭 秋山賢一

14：10～ 基調講演

井口深雪

14：50～ 休憩

15：00～ パネルディスカッション

「茨城県のオリンピック・パラリンピック・ムーブメント」

・パネリスト

井口深雪

金丸雄介 北京オリンピック出場

リオデジャネイロオリンピック男子コーチ、柔道

谷島緑 ロンドンオリンピック出場、ライフル射撃

・進行

真田久

16：00～ 閉会、アンケート記入



## ②内容

本フォーラムでは、「茨城県のスポーツと教育を展望する」をテーマに、茨城県におけるオリンピック・パラリンピック教育実施事例報告とパラリンピアンによる基調講演、パネルディスカッションが行われた。

茨城県におけるオリンピック・パラリンピック教育実施事例報告では、小学校、中学校、特別支援学校各1校から今年度のオリンピック・パラリンピック教育実施事例報告がされた。具体的な実践事例が紹介されるとともに、各学校では、オリンピック・パラリンピック教育の実施を通して、児童や生徒のオリンピック・パラリンピックの興味関心や国際理解・異文化理解を高めるに向けた教育活動を推進していることが報告された。

基調講演では、冬季パラリンピック3大会バイアスロン代表（1998年長野大会、2006年トリノ大会金メダリスト）の井口氏が登壇した。冬季パラリンピックの競技についての紹介、視覚障がいクラス分けについて説明があり、バイアスロンを通じて学んだことや競技生活を支えてくれた多くの人との出会いについて講演された。さらに、パネルディスカッションでは、学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の展開について様々な視点から議論が行われた。



## 3. 京都府

### (1) コンソーシアム会議

日時：平成28年12月8日（木）15：00～17：00

場所：京都新聞社第一会議室

出席委員：

音川誠一郎（京都府教育委員会高校教育課 指導主事）

河合美香（龍谷大学）

塩川拓司（京都府教育委員会保健体育課 指導主事）

鶴羽健大（㈱京都パープルサンガ 事業本部 ホームタウン推進部 部長）

遠山秀史（京都府教育委員会高校教育課 総括指導主事）

比護信子（1996 東京国際女子マラソン優勝、世界陸上アテネ大会マラソン日本代表選手  
京都府教育委員会保健体育課）

村上昌司（京都府教育委員会保健体育課 総括指導主事兼副課長）

宮本実（京都新聞 COM 取締役社長）

宮崎明世（筑波大学）

欠席委員：

坂野晴男（京都市教育委員会事務局体育健康教育室参与、JWBF、  
日本車椅子バスケット連盟強化指導部員、北京パラリンピックコーチ、  
Kyoto UPS（車椅子バスケット））

## （2）公開フォーラム

### ①開催概要

テーマ：京都府のスポーツ文化を発信する

日時：平成28年2月11日（土）13時30分～16時30分

会場：金剛能楽堂

主催：京都府教育委員会

筑波大学オリンピック教育プラットフォーム

後援：京都新聞

参加者：120名

プログラム：

13：30～ 金剛流仕舞 演目「忠度」

シテ 金剛龍謹

地謡 金剛永謹、惣明貞助、向井弘記

- 13：40～ 古典和歌披講  
京都府立鳥羽高等学校披講研究部
- 14：10～ 開会挨拶  
筑波大学体育系 教授 真田久  
京都府教育委員会教育長 小田垣勉
- 14：30～ 古典和歌披講講評  
冷泉貴実子
- 14：50～ 休憩
- 15：00～ 京都府高校生短歌コンクール 表彰式
- 15：20～ 優秀作品講評  
永田紅 歌人、京都大学農学博士、京都大学物質-細胞統合システム拠点特定拠点助教
- 15：45～ 写真撮影
- 15：50～ トークショー  
ゲスト 青木愛 元シンクロナイズドスイミング日本代表、  
北京オリンピック出場  
進行 宮崎明世 筑波大学体育系准教授
- 16：30～ 閉会、アンケート記入

## ②内容

本フォーラムでは、「京都府のスポーツ文化を発信する」をテーマに、金剛流仕舞、高校生による冷泉流作法の古典和歌、京都府内高校生から公募した自己のスポーツ体験を「する」「観る」「支える」の観点から表現した短歌(京都府高校生短歌コンクール)の優秀作品発表及び表彰を行った。トークショーは、シンクロナイズドスイミング日本代表で北京オリンピック出場の青木愛氏のオリンピックをゲストに行った。競技を始めたきっかけやオリンピック出場までの道のり、2008年北京オリンピックでの経験等について話があった。2020年東京大会を契機とした京都府のスポーツ文化の発信について検討する有意義な機会となった。



#### 4. 福岡県

##### (1) コンソーシアム会議

日時：平成28年12月21日（水）15：00～17：00（第1回）

平成29年2月16日（月）（第2回）

場所：TKP 博多駅前シティセンター カンファレンスC

出席委員：

小嶋由水（1992年バルセロナ大会女子マラソン日本代表）※第2回欠席

佐伯道郎（アビスパ福岡スクール推進部 部長）※第2回欠席

鶴英樹（福岡県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課 課長補佐）

橋本真理子（福岡県立三潴高等学校 校長）※第2回欠席

檜崎教子（福岡教育大学）※第1回欠席

宮崎明世（筑波大学）

物部倫明（福岡県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課）

欠席委員：

道下美里（2016年リオデジャネイロパラリンピックマラソン銀メダル、  
三井住友会場）

オブザーバー：

藤井潤（アビスパ福岡スクール推進部 コーチ）

村山直樹（福岡県体育研究所 指導主事）※第2回欠席

##### (2) 公開フォーラム

###### ①開催概要

テーマ：福岡県のスポーツと教育を展望する

日 時：平成29年2月4日（土）13時30分～16時00分

会 場：FFB ホール Cホール

主 催：筑波大学オリンピック教育プラットフォーム

後 援：福岡県教育委員会

参加者：60名

プログラム：

13：30～ 開会挨拶

筑波大学体育系 准教授 宮崎明世

13：35～ 福岡県オリンピック・パラリンピック教育実施事例報告

大牟田市立天領小学校 教諭 森永隆二

福岡県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課

指導主事 物部倫明

14：20～ トークショー

ゲスト 成迫健児 2008年北京大会陸上400mハードル代表

進行 宮崎明世

14：50～ 休憩

15：00～ パネルディスカッション

「福岡県のオリンピック・パラリンピック・ムーブメント」

・パネリスト

小宮正江 2012年ロンドンパラリンピックゴールボール金メダル、

パラリンピック4大会出場

藤井潤

成迫健児

・進行

宮崎明世

16：00～ 閉会、アンケート記入

## ②内容

本市民フォーラムは、2020年東京オリンピック・パラリンピック大会に向けて、福岡県における気運の醸成を図ること、及び、福岡県民として大会に

どのように関わり、何を発信できるのか、地元ゆかりのアスリートとともに、福岡だからこそできるオリンピック・パラリンピック・ムーブメントについて考える機会とすることを目的に開催した。福岡県で推進しているオリンピック・パラリンピック教育の紹介を行うとともに、オリンピックやパラリンピアン、プロスポーツ関係者によるトークショー等を行い、オリンピック・パラリンピックの意義や価値について考える機会となった。



---

平成28年度スポーツ庁委託事業

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業 報告書

平成29年3月31日

発行：筑波大学オリンピック教育プラットフォーム

茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学体育系内 Spec 307

Tel・Fax：029-853-8749

E-mail：coreadmin@core.taiku.tsukuba.ac.jp

---